

# イエス、嘆く

シリーズ～福音の力～

2020/02/23

## ルカによる福音書8章22～25節

ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖の向こう岸に渡ろう」と言われたので、船出した。渡って行くうちに、イエスは眠ってしまわれた。突風が湖に吹き降ろして来て、彼らは水をかぶり、危なくなった。弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、おぼれそうです」と言った。イエスが起き上がって、風と荒波とをお叱りになると、静まって風になった。イエスは、「**あなたがたの信仰はどこにあるのか**」と言われた。弟子たちは恐れ驚いて、「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」と互いに言った。

## マルコによる福音書4章35～41節

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、**イエスは艫の方で枕をして眠っておられた**。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「**なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。**」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。



# 突然の嵐で沈みそうになる船

- イエス様が「向こう岸に渡ろう」と言われた
  - 「夕方になって」(マルコ)
- 突然嵐になり、船が沈みそうになった
  - ガリラヤ湖では予測不能の嵐が起こる
  - 「水をかぶり、危なくなった」
  - 弟子たちは水をかきだすなどして危機を脱しようとしたのでは
- イエス様は船の上で眠ってしまわれた
  - 「イエスは艫の方で枕をして眠っておられた」マルコ
  - お疲れだったのか？

A detailed wooden boat model, likely a traditional Japanese fishing boat, is displayed in a museum. The boat is made of light-colored wood and is suspended by ropes from above. It has a long, narrow hull with a curved bottom and a pointed prow. The interior is visible, showing a wooden deck and several vertical wooden posts. A single wooden oar is attached to the side of the boat. The boat is positioned on a blue, textured surface, possibly a display case or a platform. The background is a dark, reflective surface, possibly a glass wall or a mirror.

長さ8.2m、幅2.3m  
10人乗り



# イエス様を起こし非難した弟子たち

- **イエス様を起こし非難した弟子たち**
  - 「先生、先生、おぼれそうです」ルカ
  - 「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」マルコ
- **なぜ弟子たちはイエス様を非難したのか**
  - こんな時間に船を出させたことへの不満？
  - 自分たちがこんなに頑張っているのに一人で眠っている事への怒り？
- **イエス様を非難することの愚かさ**
  - 弟子たちは漁師でイエス様は大工である！
  - 溺れるときはイエス様も一緒！

## イエス様、嘆く

- 起き上がり「風と荒波とをお叱りに」なった
  - 「風を叱り、湖に、『黙れ。静まれ』と言われた」マコ
  - すると一瞬で完全な「風」になった
- 弟子たちを嘆かれたイエス様
  - 「あなたがたの信仰はどこにあるのか。」ルカ
  - 「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」マルコ
- 数々の奇跡を見てきた弟子たちだが、心底驚いた弟子たち
  - 「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」

# 人生の「突然の嵐」に襲われたとき

- 私たちの人生にも「突然の嵐」のような出来事が起こる
  - 想定外・好ましくない・どうして良いか分からない…
  - 私たちの心も嵐のように波立ってしまう
- 恐れ、パニックに陥ってしまう
  - 好ましくない未来を想像して不安になり恐れる
  - 慌てふためいて正しい判断力を失う
  - 余裕がなくなり周りの人たちを責める
- なぜそうなるのか？
  - 周りの状況(荒れ狂う湖面)に目を奪われる
  - 自分の力で何とかしようとする



# 嵐の時の対処法

- 弟子たちはどうすれば良かったのか
  - 荒れ狂う湖面や水が入ってくる船ではなく
  - 眠っておられるイエス様を見るべきだった!
- 信仰ある対応とは
  - 同じ船に乗っておられるイエス様に目を向ける
  - 私たちのために神の位を捨て、身代わりに死んで下さる方が共におられる
  - 必要なら一瞬で嵐を静められる方であることを信じる(後から驚くのではなく)
- イエス様に叱られないために
  - 「静まれ」とお叱りになったのは弟子たちの心

## ティモシー・ケラー 2/11

どうすれば問題に巻き込まれずに生きることが出来るでしょうか？この問いは、どうすれば問題が起こらないかではなく、問題が起こっても心の平安を乱されずにいられるか、という意味です。  
**確かに問題はあなたからすべてを奪うことができますが、神を奪うことまではできません。**したがって、神があなたにとってより大きな安心で、より深い安全で、世界の他の何よりも強力な希望なら、あなたは何の問題も恐れません。



問題の中で神に拠り頼むことは、この問題の中でしか学ぶことのできない霊的な技術を磨くことです。困難は地上の慰めを奪いますが、祈り、御言葉を黙想することで、私たちは神に近づき、神独自の慰めを得ます。このプロセスは長く、多くの部分で痛みを伴いますが、その実りはどんな問題をも奪うことのできない霊的な安定です。イエスはそれをすべての弟子たちに約束されています(マタイ11:28-30)